

平成30年度 環境学習プログラムの 活動報告

村では、「東海村生物多様性地域戦略(平成26年3月策定)」に基づき、平成28年度から村内小学校と連携して、本村の自然を生かした環境学習を進めています。

この戦略は、村内における生物多様性の保全・再生と、自然の恵みを持続的に得ることができるまちづくりを進めるものです。平成30年度は村立白方小学校、中丸小学校、村松小学校の3校で実施しました。各校の活動について報告します。

【問い合わせ】環境政策課環境計画・緑化推進担当
(☎282-1711 内線1454)

白方小学校



白方小5年生は、保全配慮地区に指定されている「前谷津湿地」をフィールドに、村の自然の魅力について学習しました。湿地内を探索し、ウドの匂いを嗅いだり、オオヨシキリの鳴き声を聞いたり、五感を使って前谷津湿地の自然を学びました。「自分がみんなに伝えたい“前谷津湿地の魅力”を探す」というテーマで行われた秋のフィールドワークでは、希少な植物であるツリフネソウや斜面に姿を現した多くのキノコに興味津々。一人ひとりが見つけた自然について壁新聞にまとめ、3学期の授業参観で前谷津湿地に生息する生き物たちの魅力を発信しました。

中丸小学校



中丸小5年生は、総合福祉センター「絆」北側緑地において昆虫採集、植物探し、野遊びを行いました。バッタやイナゴ、緑地内の小川からオニヤンマのヤゴやニホンアカガエルを発見したほか、葉の付き方や花びらなど観察のヒントをもとに、季節の植物を探しました。野遊びでは、水路を使ってヨシ舟レースをしたり、サクラダテなどの植物やモクズガニ、ヨシノボリなどの水中の生き物を観察したりしました。現在は、フィールドワークや夏休みの調べ学習を通じて知った「絆」北側緑地の魅力を発信するため、校内外にポスターやリーフレット等を掲示しています。

村松小学校



村松小5年生は、村松小の“環境政策課”となり、学校ビオトープの生物多様性を豊かにすることを目指し、増やしたい生き物が住みやすい環境や餌は何か、学校ビオトープは適した環境が整っているか、などの調べ学習を進めてきました。また「蚊が絶滅してしまったらどうなるか」、「土や水はどうやって作られているのか」といった問いに児童同士で意見を交換し、生き物によって支えられている自然の仕組みについて考えました。3学期の授業参観では、自分たちが守りたい生き物を学校ビオトープに誘致するための提案を行いました。